

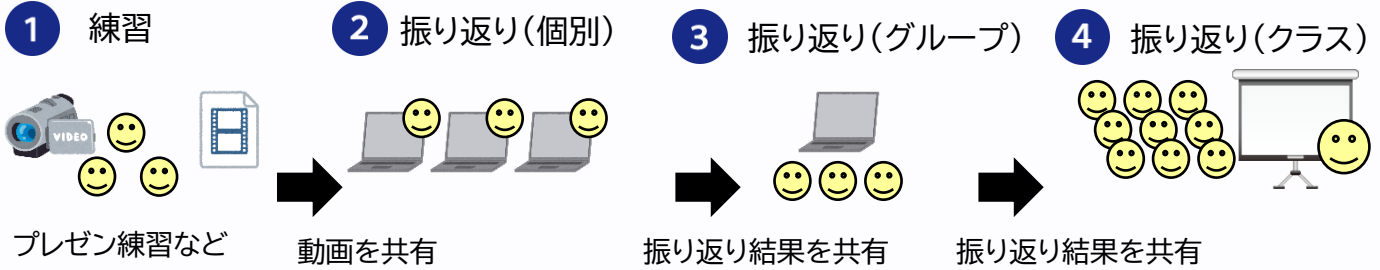
多段階の振り返りを考慮した教育活動データの共有

山口昌也



FishWatchr のHP

多段階の振り返りを導入した教育実践

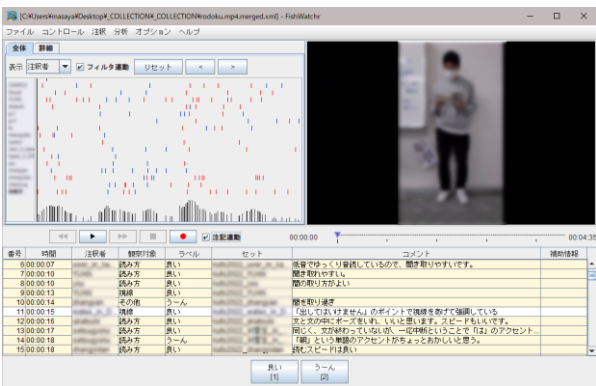


目的

データに基づく振り返りの実現 ⇒ 練習などの動画や振り返り結果をすばやく共有できるようにする

FishWatchrを用いた振り返り支援 / 共有機能の拡張

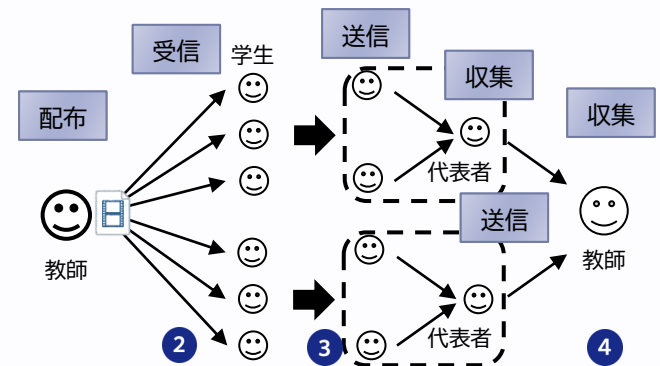
FishWatchr : 教育活動向けビデオアノテーションシステム



- ボタン操作で、何か気づいたシーンにラベルやコメントをアノテーションできる
- 例: 「いいね」「うーん」
- 例: 「読み方・いいね」「視線・うーん」

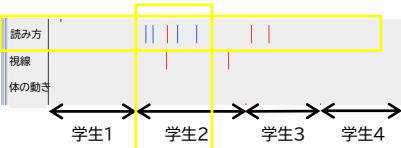
FishWatchrへの共有機能の追加

- FW同士でインターネットを介して通信
- 教育活動データの「送信」「受信」「配布」「収集」が可能
- 共有サービス(例: Dropbox)のようなアカウントは不要
- 外部のサーバに教育活動データが保存されることはない



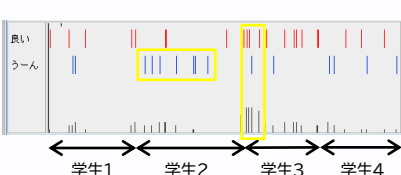
共有機能を用いた実践結果 — 教師養成を目的とした「音読」観察 —

振り返り(個別)結果の例



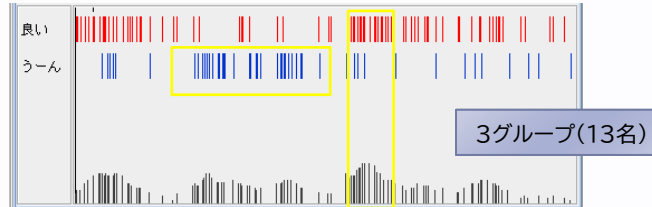
- 手順①では、4名の学生による同一内容の音読ビデオを配布
- 読み方に着目
- 学生2に「うーん」(青)

グループ振り返り時のデータ(4名のグループ)



- 大学院生4名のグループ
- 学生2に「うーん」
- 学生3冒頭「良い」

クラス全体での振り返り時のデータ例



- 学生2の「うーん」、学生3冒頭「良い」の傾向をクラス全体でも確認
- 教師が特徴的なアノテーション箇所やコメントを参照して、学生と対話しつつ振り返り

1コマ100分の授業内で実施
(活動自体の意義やFWの練習は前の1コマ使用)